

## 文化力による地域活性化の推進について ～国民文化祭・京都 2011 の成果の継承・発展～

【関係省庁】文部科学省 文化庁

第 26 回国民文化祭・京都 2011 は、「<sup>ほっしん</sup>こころを整える～文化発心」をテーマに 10 月 29 日から 11 月 6 日の 9 日間、京都府内すべての市町村で地域の個性を活かした約 70 のイベントを実施し、日本文化の魅力や東日本大震災からの復興の決意を広く国内外に発信したところです。

国民文化祭・京都 2011 の成果や高まった気運を今後とも継続、発展させ、文化力による京都の活性化を一層高めるための取組に対し、予算を重点配分いただきますよう要望します。

### 文化庁の概算要求

#### 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 54 億円

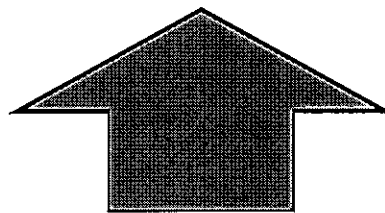
日本各地の多様で豊かな文化遺産を活用し、伝統行事・伝統芸能の公開や後継者養成、重要文化財等の公開活用や史跡等の復元・公開など、それぞれの地域の特性に即した総合的な取組の支援を行うことで、地域の観光振興と活性化に寄与する。

#### 地域発・文化芸術創造発信イニシアティブ 30 億円(新規)

文化振興のための条例を制定の地方公共団体が「新しい」公共の要素を取り入れ、地域住民、芸術団体、文化施設、教育機関等とともに実施するシンポジウム、芸術祭、国際文化交流事業等の特色ある文化芸術振興の取組を支援する。

#### メディア芸術発信支援事業 13 億円(新規)

国内外にメディア芸術を発信する拠点となりうる、地域が実施するメディア芸術の振興に向けた取組に対して補助等を行う。



京都府からの要望

## 1 国民文化祭の成果を踏まえた展開

### (1) 文化力の未来の担い手を育むための次世代育成事業への支援

国民文化祭で培われた文化を途切れなく継承・発展させていくため、京の文化力による未来の担い手を育成するために地域住民や団体・NPO等と協働で京都府が取り組む次世代育成事業に対し、「地域発・文化芸術創造発信イニシアティブ」等の予算を重点的に配分すること。

### (2) 地域伝統芸能の振興事業等への支援

ポスト国民文化祭として、国民文化祭を契機に復興を果たした地域伝統芸能の振興事業や文化交流事業に対し、「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」等の予算を重点的に配分すること。

### (3) 映画・映像関連産業のコンテンツを生かした映像作家育成事業の展開

京都府では、次代の京都の映画・映像産業を担う人材を育成するため、若手人材育成を実施しているところであるが、国民文化祭の成果も踏まえ、国内外から優秀な人材を集めることで、こうした京都府の取組を更に効果的なものとするために、「メディア芸術発信支援事業」の予算を重点的に配分すること。

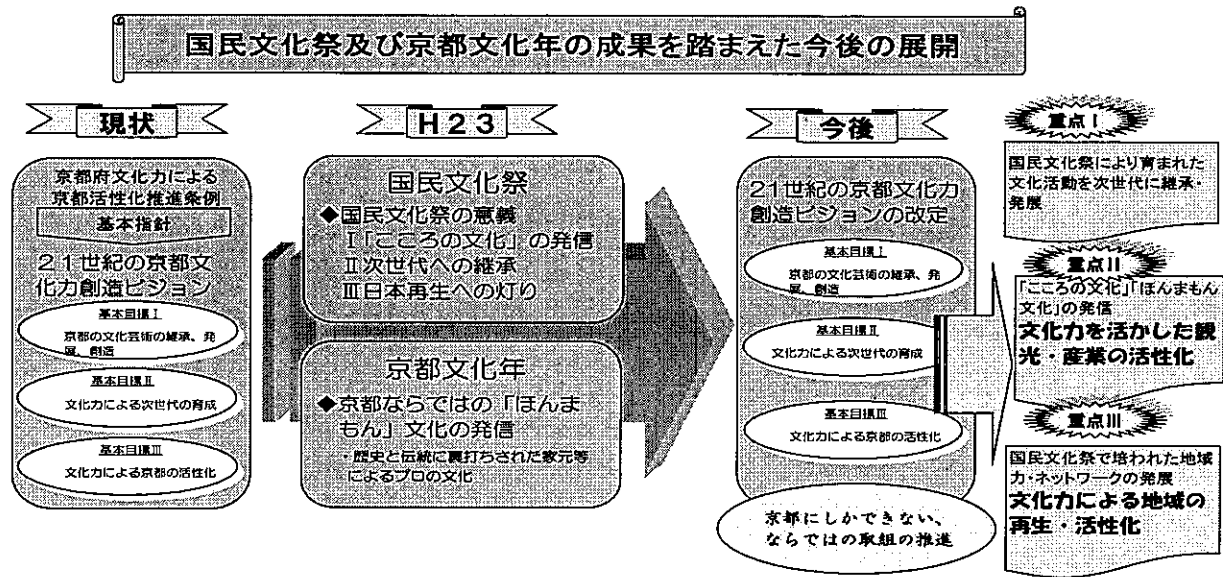
## 3 古典の普及及び振興に関する法律の制定について

日本の伝統文化や日本人の心を次世代に継承していくため、古典の普及及び古典を活用した文化の振興についての法律を制定し、国において積極的な振興に取り組むとともに、特に、国民が広く、人間の叡智の結晶である古典に触れ、親しむ日として、11月1日を「古典の日」と定めること。

## 4 総合的な文化・スポーツ施設の整備推進等について

我が国が文化芸術の一層の振興を図り、また、スポーツ立国戦略を推進するため、地域が実施する文化やスポーツに係る総合的な施設の整備・改修について、適切な補助制度の創設をすること。

京都府の現状・課題等



【第26回国民文化祭・京都2011の成果】

平成23年10月29日（土）から11月6日（日）までの9日間、音楽、舞踊、演劇、芸術、文芸などの芸術文化から、地域独自の伝統文化や生活文化まで、京都府内すべての市町村で約70のイベントを実施

【国民文化祭を踏まえた今後の展開】

◆ 京の文化力・次世代育成プラン（中間案）について

京の文化力による未来の担い手の育成を目標に次世代育成事業を展開

《主な取組》

▷ 京都次世代あーとキャンパス（仮称）の開催

学校、公民館、アトリエ・工房等各地の会場をキャンパスに見立てて、京都ならではの芸術家を講師とする本格的な文化芸術体験講座を実施

▷ こども文化ステーションの設置

公立文化施設に、地域における交流・育成拠点となる「こども文化ステーション」を設置。次世代を対象とした公演、地域のニーズに応じた出張演奏会・体験講座、次世代文化体験に係る相談・助言・人材育成等を実施

▷ 次世代文化祭典の開催

次世代が日頃の文化活動を一堂に集まって発表・交流する「次世代文化祭典」を地域巡回で開催等

▷ 地域の芸能伝承事業

次世代が、地域の高齢者等から、地域の祭や伝統芸能を学び体験する事業を、市町村やNPO、地域の文化団体等と連携して実施

▷ アートNPO等民間団体と連携・支援

NPO等民間団体が行っている次世代を対象にした「舞台公演」「体験プログラム」や地域文化情報等の収集・発信・支援

◆ 映像作家の人材育成について

▷ 京都映画若手才能育成ラボ

京都府では、平成20年度から映画スタジオなどの映画資産を活用し、若手映像作家が国内外の一流監督・映画人の指導を受けて、映画製作の現場を体験し、映画関係者との交流ができる場を設けている。また、海外の若手育成プログラムへの京都からの参加を支援しており、これらの拡充を図っていくこととしている。

▷ 若手作家の作品制作等への支援

国民文化祭・京都2011では、平成22年度メディア芸術祭受賞作品を中心に、京都で制作されたアニメーションの上映や京都を制作の拠点として活躍するクリエイターの活動を広く伝えたところであり、京都の若手作家等の作品など京都の豊かな映画・映像文化を広く発信していく取組を行う。

◆ 古典の日推進の取組

- 平成20年の源氏物語千年紀を機に提唱された「古典の日」宣言の趣旨を継承発展させるため、古典に親しみ次の世代につないでいくための様々な事業を展開
  - ▷ 古典の日推進フォーラム2011の開催（毎年11月1日に実施）
  - ▷ 「古典の日」法制化等に向けた普及・署名活動
    - ① 古典の日制定推進イベント in 東京（11月28日実施）  
～瀬戸内寂聴&新井満チャリティ公演会
    - ② 古典作品の全国朗読コンテストの実施  
23年度 応募者328件（うち高校生以下84件）
    - ③ 街かど古典カフェ（5講座） など
- 「古典の日」制定のための署名活動を展開中  
経済・文化芸術関係の著名人44名が古典の日制定推薦人として賛同  
署名数 平成23年10月末現在 約103,000名
- 古典の日推進に向けた次世代育成の取組（京都府）
  - ①教育委員会との連携のもと、高校生等を対象として、古典に親しみ学んでもらうための事業を実施（H23年度11件採択）
  - ②小・中学生による古典作品等の朗読・暗唱大会（京都府内5会場） など
- 文部科学省新しい学習指導要領において、伝統的な言語文化について積極的な取組を推進

【京都府の担当部局】

文化環境部 文化芸術室 075-414-4217・4219・4222  
スポーツ生涯学習室 075-414-4252

